

放課後等デイサービス自己評価表

令和2年度

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			都の規定の標準面積よりも広く訓練室をとって支援を行っている
	2	職員の配置数は適切であるか	○			規定の指導員数よりも多い人数で指導員を配置。療育や課題にはマンツーマンで行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		事業所は2階でエレベーターはなく階段。訓練室はすべてが見渡せるようになっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			スタッフの細かな業務は分掌されるも、業務改善には全スタッフで目標と振り返りを行っている。また朝の会議を定例化している。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			平成30年度より保護者評価を公開している。契約時に各区に設けられた意見窓口の共有と共に事業所内でもメールや連絡帳で意向を伝えやすい環境を整えている。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○		評価結果による改善点や内容の変更については、毎月のニュースレター等で公開を行う予定である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			平成30年度に第三者外部評価を実施。福ナビにて掲載されている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			スタッフ研修日を設けたり、外部の研修やトレーニングを取り入れている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			保護者と事業所のコミュニケーションを円滑に行い、利用者側のニーズは日々取り入れ支援へとつなげている
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			低学年、中学年、高学年と主に3段階にわたるアセスメントツールを使い、個々の適応力、行動力を図り支援の詳細化に役立てている
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			計画は児童発達支援管理責任者の中心のもと、療育にあたるすべての指導員と共に個別に支援を話し合っている。「発達支援」を中心に具体的な支援目標や内容を決めて行われている。
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			個々の特性を見極め、また家庭環境なども配慮して計画立てている。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			指導員の職務や資格をいかしたプログラムを作り多様化するよう心掛けている
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			指導員の職務や資格をいかしたプログラムを作り多様化するよう心掛けている
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか		○		主に「個別活動」に注力した計画を作成。少人数且つ集団ならではの施設の利点を生かした形で集団療育も心がけている

	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			利用者との面談後はその内容を共有し、利用者の通所前には「支援計画(案)」を作成、支援についての方法を話し合っている。学校や送りの自宅についても現地調査を必ず行っている
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			日々の支援の中で気付いたことは当日中にスタッフ間で共有できるような環境を整え、次につなげられるよう工夫している。また業務ノートに当日の子どもの様子を記し、翌日の定例会にて共有を行っている。
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			訓練中に個々の利用者の記録をノートし、日次でデータ化を行っている。支援の内容を見返すのに役立っている
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			年に2度のモニタリングを行い、どう支援がされたかを振り返り、今後の支援に役立てるよう体系化している
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			子どもの訓練に日々注力できる指導員を数名配置し、会議にも積極的に参加できる体制を整えている
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			必要に応じて関係支援者に連絡を取り会議等もを行っている
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○		医療ケアの必要な利用者、また重身の利用者についても、現在受け入れを行っていない
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○		受け入れが実現した場合は利用者の主治医との面談、また事業所の提携医療機関への連絡体制を整える
	24	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			必要に応じた担当者会議に出席し情報を得て支援計画へ役立っている
	25	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			必要に応じた担当者会議に出席し情報を得て支援計画へ役立っている
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			必要に応じ連絡を取り聞き取り調査や面談を行い、利用者によりよい支援ができるよう心掛けている
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		学童クラブとの併用のすすめや土日の休校日を利用し、障害のない子どもとのふれあいの機会を設けるなど工夫を検討している。
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○		区で行われる会議等があった場合、積極的に参加している
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			通所日はその日の利用者の様子を細かく伝えるための連絡帳を保護者とのコミュニケーションツールとしている
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		利用者の保護者の求めに応じプログラムの案内(民間や行政により支援)等は行っている。令和元年は提携姉妹校主催による就労支援の講演会の案内を行った。

保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時の重要事項説明書内で明言し、都度質問にも答えている
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			個別支援計画(案)の作成後、保護者からの加筆修正を求め、それに基づいて清書する。必要に応じて説明も行う。(通常時は面談時に支援計画案については保護者と綿密に話しをする)
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			電話相談や子育てで悩みを抱えている場合は積極的に預かりを受け入れている。日々の保護者との「連絡帳」を主に、就労で忙しいご家庭は24時間体制でメールを受け付けている
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		令和2年度は保護者間の横のつながりが持てるような懇親会を開催する予定。
	35	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			利用者やまたその保護者からの相談については迅速に対応している
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			キッズ新聞というニュースレターを月次で発行している。また、定期的に一斉メール配信のご案内、レター、長期休み前に前に向けた活動概要について案内を発信している
	37	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			個人情報についてはデータ化されたものは暗号化、また書類は鍵のかかる棚に保管されている
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			個々の特性を見て対応、また家庭環境、保護者側のレスパイトケア等も配慮している。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		姉妹校との交流会や地域に住むボランティアスタッフなど招き入れる体制がある
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			緊急時対応マニュアルについては契約時に重点的に説明を行っている。またスタッフ間でもそれを共有している。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			毎月防災訓練を行っている
	42	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			利用者の細かなチェックリストを事前に保護者に記入してもらいスタッフ間で共有している
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		食物アレルギーについては利用者に事前提出してもらったチェック表にて把握。
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットの事例のファイルを設け指導員の共有事項として日々周知を行っている。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止に対する指導員の意識はチェックシートを使い、会議等の議題としても設け定期的に確認を行っている。外部研修についても参加できる機会を周知してる。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○		”やむを得ない状況”が起こると予想される利用者の対応については事前に保護者からの聞き取り、申し入れに準じて行っている。また契約時の重要事項説明の中で説明できるようにしている。